

「自己改革」実践状況

1 報告の目的

当JAでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、相互扶助の理念に基づき、

- I. 農家所得の向上による大阪農業の振興
- II. 地域貢献を通じた次代の組織基盤とJAファンづくり
- III. 総合事業機能を発揮した健全なJA経営
- IV. 府民理解の醸成に向けた広報活動

を実現するため、様々な『自己改革』に挑戦しています。

『自己改革』は、組合員の願いを実現し、地域の農業とくらしになくてはならない組織となることを目指す改革であり、当該改革における取り組み等を組合員の皆さまと共有するため、平成28年度から下記の事項において取り組んでいます。

2 実践状況報告

新たに実施した取り組み		
『自己改革』の実現に向けて、当JAでは以下のような新たな取り組みを行っています。		
取り組み事項	実践方策	平成28年度の実践状況
人材育成の強化	人材育成に向けた人事制度の充実と研修機会の確保	外部講師を招き、1年間を通じた次期管理職向け研修会を実施し、9人が参加しました。外部で開催される研修会にも積極的に参加しました。
有害鳥獣対策強化	鳥獣被害における農業意欲の減退や耕作放棄地の増加等による、環境対策と防除支援	電気柵の購入を予約購入にし、本体価格の10%を購入者に助成し8件の申し込みがありました。さらに、通年予約特別価格を設定しました。
新経営体制の確立	改正農協法に対応した経営体制の確立への取り組み	役員構成審議会を設置し、3回の協議を重ね、認定農業者や女性の登用など、新しい役員構成について答申を受けました。
地域に根ざした活動	子ども食堂への支援	5地域で行われている「子ども食堂」の開催日にあわせ、出荷者から食材の提供に努めました。
地域消防	消防団活動	地域の消防団に当JA職員が19人参加していること等が評価され、茨木市消防本部より消防団協力事業所表示証の交付を受けました。

内容を充実して実施した取り組み

『自己改革』の実現に向けて、当JAでは以下のとおり、従来からの取り組みをより充実又は内容を変更し行っております。

取り組み事項	実践方策	平成28年度の実践状況
精米・販売体制の強化	地元産米の集荷とJAブランドの販売	地元産米8,285袋/30kgを集荷し、学校給食会に145トンを提供しました。
営農指導体制の強化	組合員向け農業経営指導と生産指導の強化	アグリアドバイザーを6人養成し、スーパーアグリアドバイザーと併せて29人になりました。
農業所得向上の取り組み	生産資材のコスト削減	緑肥用レンゲ種子による、コスト低減を目的としたJA独自の助成制度で、47件の申し込みがありました。

従来から実施している取り組み

組合員や地域住民の皆さまの願いを実現するため、当JAでは、以下の取り組みを引き続き行っております。

取り組み事項	実践方策	平成28年度の実践状況
次世代を担う青少年の健全育成	JA茨木市・旗争奪少年軟式野球大会の開催	茨木市スポーツ少年団と協力し、111チームが参加する少年軟式野球大会を後援しました。
地域の子どもたちと絆を深める活動	子どもたちに地域農業を知ってもらうため、出張授業や地元野菜を使った料理教室を開催	希望する小学校へ出張授業を行いました。フレッシュミズ主催による「夏休み子ども料理教室」開催の支援をし、22人が参加しました。
地域美化への貢献	店舗周辺クリーン作戦・花いっぱい運動の実施	職員自らが営業前に自店周辺の清掃を行うクリーンデーを84回実施し、花いっぱい運動を展開しました。
組合員との徹底した話し合い	関係組織との定期的会合の開催	当JA役付役員と関係組織代表者との会合を、延べ9回にわたり開催し組合員からの要望をJA活動に反映しました。また、大阪府版認定農業者制度周知のため各地区において説明会を実施しました。
営農指導体制の強化	営農講習会、営農塾等の充実と担い手の支援	各地区のほか出荷者や職員を対象とした営農講習会を23回実施し、定年帰農者等に対して営農塾を継続的に開催し生産技術の向上を支援しました。
食農教育応援事業の推進	農作業に対する理解の拡大	教育委員会を通じて幼稚園・小学校34校にサツマイモ苗3,100本を配布しました。また、5校の学習田を助成したほか、12校へバケツ苗854セットを提供しました。